



START TODAY CO.,LTD.

平成 29 年 4 月 19 日

各 位

会 社 名 株式会社スタートトゥデイ
代表者名 代表取締役社長 前澤 友作
(コード番号 3092 東証第一部)
問合せ先 取締役副社長兼 CFO 柳澤 孝旨
電話番号 043 (213) 5171

業績予想の修正、配当予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 4 月 19 日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 28 年 4 月 28 日に開示いたしました平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）の通期業績予想及び平成 28 年 7 月 29 日に開示いたしました 1 株当たり配当予想について、修正することといたしましたので、お知らせいたします。

また、平成 29 年 3 月期におきまして、以下のとおり、特別損失を計上することといたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期の連結業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	69,030	22,140	22,150	15,260	48 円 97 銭
今回修正予想 (B)	76,300	26,200	26,400	17,000	54 円 55 銭
増減額 (B - A)	7,270	4,060	4,250	1,740	
増減率 (%)	10.5%	18.3%	19.2%	11.4%	
(参考) 前期連結実績 (平成 28 年 3 月期)	54,422	17,756	17,883	11,988	37 円 46 銭

(注) 当社は、平成 28 年 10 月 1 日を効力発生日として 1 株につき 3 株の割合をもって株式分割を実施しているため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり当期純利益を算出しております。

修正の理由

平成 29 年 3 月期につきましては、商品取扱高拡大施策が奏功したことで、商品取扱高は当初計画 195,000 百万円を上回る 212,000 百万円、売上高は当初計画 69,030 百万円を上回る 76,300 百万円となる見込みです。営業利益につきましては、当初計画 22,140 百万円（商品取扱高対営業利益率 11.4%）を上回る 26,200 百万円（同 12.4%）、経常利益につきましては当初計画 22,150 百万円を上回る 26,400 百万円となる見込みです。なお、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、「4. 連結決算における特別損失の計上」を踏まえた上で当初計画 15,260 百万円を上回る 17,000 百万円となる見込みです。

2. 配当予想の修正

当社は、株主の皆様への利益還元につきましては、業績の推移・財務状況、今後の事業・投資計画等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスを取りながら検討・実施していくことを基本方針としております。具体的には連結配当性向 40%を目安に実施しております。

平成 28 年 7 月 29 日付「配当予想の修正に関するお知らせ」にて平成 29 年 3 月期の 1 株当たり期末配当金を 14 円と予想しておりましたが、当期の業績、今後の事業・投資計画等を総合的に勘案した結果、1 株当たり 16 円に修正いたします。

	年間配当金		
	第 2 四半期末	期末	合計
前回予想 (平成 28 年 7 月 29 日公表)		14 円 00 銭	—
今回修正予想		16 円 00 銭	—
当期実績	20 円 00 銭		
前期実績 (平成 28 年 3 月期)	19 円 00 銭	28 円 00 銭	47 円 00 銭

(注) 平成 28 年 10 月 1 日を効力発生日として 1 株につき 3 株の割合をもって株式分割を実施しており、平成 28 年 3 月期及び平成 29 年 3 月期の第 2 四半期末の 1 株当たり配当金については、株式分割前の実際の配当額を記載しております。

3. 個別決算における特別損失の計上

BtoB 事業（ブランドの自社 EC サイトの構築及び支援の受託事業）等の EC 事業の運営を行っている連結子会社(株)アラタナの業績が当初策定した計画を下回っており、業績の見通しを慎重に検討した結果、平成 29 年 3 月期の個別決算において同社の株式について、関係会社株式評価損 2,501 百万円を特別損失として計上することとなりました。

なお、当該関係会社株式評価損につきましては、連結決算上相殺消去されるため、連結財務諸表に与える影響はございません。

4. 連結決算における特別損失の計上

個別決算において上記の関係会社株式評価損の計上を行うことに伴い、連結決算において同社に係るのれんについて減損損失 1,483 百万円を特別損失として計上することとなりました。

また、当社が保有する投資有価証券について、実質価額が著しく下落したことにより、投資有価証券評価損 702 百万円を特別損失として計上することとなりました。

以 上